

1 学年 情報指導案

1 単 元 情報社会の課題と情報モラル（フェイスブックの活用と危険性）

2 目 標

情報通信ネットワークを活用したコミュニケーションツールであるSNSの光と影について学び、コミュニケーションの在り方について考え、トラブルが起こった際の対策について解決できる知識と技術を身に付ける。

3 指導計画（全3時間）

主な学習内容及び学習活動	時 間	評価計画
1 SNSの光と影 (バーチャル環境におけるコミュニケーション) (1) SNSとは フェイスブックの魅力とリスク (2) SNSでのコミュニケーションの在り方 (3) トラブルに関するセキュリティ対策	3時間 1時間(本時) 1時間 1時間	○ 講義内容の理解 ○ 話し合いとまとめ ○ 実技

4 本時の目標

フェイスブックの仕組みについて理解し、その魅力とリスクの事例を見ながら適切なコミュニケーションの方法について考える。

5 情報モラル教育の指導領域 安全への知恵

6 学習指導過程（「フェイスブックが危ない」（文春新書）を使用しての授業実践）

学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評 価	資料・準備
1 フェイスブックの魅力を知る。 ・安心してつながる ・友だちを見つけやすい ・就職活動等に利用する ・災害時の安否確認に活用	○ フェイスブックの魅力について理解させる。		プリント
2 フェイスブックの仕組みについて理解する。 ・投稿とニュースフィードの関係 ・公開範囲の設定について	○ 実際の画面を示しながら注意点を押さえる。	○ フェイスブックの仕組みを理解できたか。	プロジェクター
3 企業がフェイスブックに求人窓口を作る理由を知る。 ・協調性の確認 ・就職希望者の情報を集め採用の是非に活用 ・個人データを収集し成績化する	○ 企業側のメリットについて理解させる。		
4 フェイスブック社の収益について知る。 ・ターゲット広告による収入 ・ソーシャルゲーム上の商取引 ・軍事や治安に活用されるSNS	○ 無料にしても欲しいものがある事を知らせる。 ○ ネット社会は国境を越えているため、国内の法律だけではカバーできないことを理解させる。		
5 トラブル事例から学ぶ。 ・ネットストーカー ・人間関係のトラブル ・誹謗中傷 ・うっかり発言 ・なりすまし	○ 実名登録だからこそ起こる問題について事例を挙げて説明する。 ○ ネット社会でのコミュニケーションにおける留意点を確認させる。	○ トラブルの原因を理解できたか。	プロジェクター
6 次時はSNSの取り扱いについて討論することを告知する。	○ SNSをどのように取り扱うかまとめさせておく。		原稿用紙